

国際化学肥料ニュース (2016年12月)

肥料業界の2016年12月動態

- * 中国税関の統計データによれば、10月と11月の化学肥料輸出量が減り続けている。その理由は二つある。一つは農産物の国際価格が低迷で、化学肥料の需要が減少している。もう一つは中国の人件費や原料価格が上昇し、国際競争力が弱まっている。

10月の化学肥料輸出量が前年同期より2.8%減の241万トン。その内訳は尿素が33.4万トン、DAP87万トン、MAP28.5万トン、重過石5.7万トン、NP2元素化成肥料2.9万トンであった。肥料輸入量が36.4%減の70万トン。その内訳は塩化加里62万トン、高度化成肥料7.6万トン。

11月の速報では、化学肥料輸出量232万トン、輸入量92万トンである。

- * 中国窒素肥料工業協会の発表によれば、中国窒素化学肥料メーカーの経営が危険な状態に陥った。2014年業界全体の赤字額50億人民元(当時の為替レートでは約8.0億ドル)、2015年業界全体の赤字額30億人民元(当時の為替レートでは約4.8億ドル)から2016年1~10月の赤字額が100億人民元(約14.7億ドル)に急増した。赤字額の急拡大の原因は、2度にわたる電気価格の値上げと原料石炭の価格上昇である。

公的統計データからも窒素肥料業界の置かれている困難な局面が確認される。中国国家統計局のデータによれば、2016年1~9月の窒素肥料全体の売上高が14.5%減の1637.9億人民元(約237.4億ドル)、業界全体の赤字額が613.3%増の84.7億人民元(約12.3億ドル)、統計に入った283社の半分以上(51.2%)の145社が赤字経営に陥った。

- * 12月18日国営中国化学肥料とヨルダンACP社は2017~2019年の3年間に計260万トン塩化加里をヨルダンから輸入する覚書を締結した。輸入価格は毎年行われる中国と各大手加里肥料メーカーとの間に締結する輸入契約に準ずる。

- * 中国統計局の速報によれば、11月の化学肥料生産量が7ヶ月連続減少した。11月の中国化学肥料生産量が前年同期より10.2%減の593.89万トン(NPK100%換算、以下同)、1~11月の累計でも2.4%減の6752.85万トンである。その内訳は11月の窒素肥料生産量が18%減の354.36万トン、りん酸肥料生産量が4.49%増の168.69万トン、加里

肥料生産量が 10.17%増の 71.38 万トン。尿素生産量の減少が目立ち、11 月が 25.2%減の 236.36 万トンしかなかった。

- * 中国税関の速報によれば、11 月の中国化学肥料輸出量が 234 万トン、そのうち尿素 34 万トン、DAP88 万トン、化学肥料輸入量が 92 万トン、そのうち塩化加里 85 万トン、高度化成肥料 5 万トン。1~11 月の化学肥料輸出量が 20.6%減の 2498 万トン、そのうち尿素が 31.9%減の 812 万トン、DAP が 18.6%減の 589 万トン、化学肥料輸入量が 25.9%減の 720 万トン、そのうち塩化加里が 28.5%減の 578 万トン、高度化成肥料が 23.0%減の 106 万トンである。

- * 12 月 23 日、中国政府は 2017 年の関税改定を発表した。その中に化学肥料に関する部分について、窒素肥料とりん酸肥料の輸出関税が完全に撤廃され、NPK 化成肥料の輸出関税が 30%から 20%に引き下げ、加里肥料の輸出関税が不変である。2007 年から始まった中国化学肥料の輸出関税は、加里肥料と NPK 化成肥料、PK 化成肥料を除き、9 年ぶりに無税となる。詳細は、当 HP の「肥料業界の参考資料」→「中国政府が発表した化学肥料輸出関税等の資料」→「2012~2017 年中国化学肥料輸出関税対比表」をご参考ください。

- * ロシアの Acron 社の会長 Alexander Popov 氏は、ロシアウラル地方の Perm 地区にある Talitsky 加里鉱山の開発を延期する可能性があるとして述べた。2015 年 11 月 Acron 社は中国、インドと中東諸国から投資者を募り、Talitsky 加里鉱山の開発に約 16 億ドルの資金を集める計画を打ち出した。しかし、世界的な塩化加里の生産能力過剰と価格低迷で、インド側が Talitsky 加里鉱山に 30%の出資を再考するため、ほかの出資者も観望することになり、開発に必要な資金集めがうまく行かない。

大手各社の営業業績

- * モロッコ OCP 社が第 3 四半期の業績を公表した。世界的なりん酸肥料需要不振と価格低迷の影響を受け、7~9 月の売上高が前年同期より 22%減の 10.5 億ドル、減価償却前の営業利益 (EBITDA) が 38.5%減の 3 億 3400 万ドル、粗利益率が 32%に落ちた。

- * ロシアの Uralkali 社は 1~9 月の業績を公表した。1~9 月の生産量が 9%減の 790 万トン、販売量が 6%減の 800 万トン、その内 630 万トンを輸出した。1~9 月の売上高が 29%減の 16.8 億ドル。なお、7~9 月の塩化加里生産量が 7.7%減の 280 万トン。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * 12月4日ナイジェリアの Dangote 社はモロッコ OCP 社と合弁で規模ではアフリカ最大、世界でも2番目の尿素工場を建設することを発表した。また、ナイジェリアからモロッコまで天然ガスのパイプラインの敷設も合意した。
- * 12月28日、アメリカの CF Industries 社はアイオワ州にある Port Neal 肥料工場の拡張プロジェクトを完成したと発表した。

11月下旬から稼働し始めた新たなアンモニアプラントは生産能力 2425 トン/日、12月から稼働し始めた新たな尿素プラントは生産能力 4000 トン/日である。拡張プロジェクトの完成により Port Neal 肥料工場の年間生産能力がアンモニア 120 万トン、尿素 140 万トン、UAN（尿素硝安液肥）80 万トンに拡大される。

その他

- * ナイジェリアの AFAP（アフリカ化学肥料と農業パートナー協会）の発表によれば、ナイジェリアは石油と天然ガスの恩恵を受け、この数年間で化学肥料産業が外国から約 45 億ドルの投資を受け入れた。ナイジェリアは肥料産業が非常に貧弱で、化学肥料使用量が近隣のケニアなどより明らかに少ない。外国から肥料産業、特に窒素化学肥料分野への投資が経済成長だけではなく、農業生産と食糧確保にも重要な意義がある。
- * 12月19日、ブラジルの Vale 社は国内肥料事業の大半をアメリカの Mosaic 社に譲渡することを発表した。譲渡金額 25 億ドル、そのうちの半分が現金で、残りの半分は Mosaic 社の普通株式数約 11%の 4230 万株で充てる。当該事業譲渡は 2017 年に完了し、Mosaic 社が念願のブラジル化学肥料市場に進出することができる。その発表を受け、ニューヨーク証券取引所に上場している Mosaic 社の株価が 6%も下がった。
- * 12月27日、ウクライナ国際貿易委員会が声明を発表し、ロシアから輸入される化学肥料に対してアンチダンピング関税を徴収する可能性があることを表明した。これはウクライナ政府の農業政策と食品省がロシア産化学肥料のダンピングの有無に対する審査請求を提出したことに対する対応で、審査結果によりアンチダンピング関税を実施するか否かが不明である。